

2023年3月期 第1四半期決算説明会

2022年8月3日

目次

1. 2023年3月期 第1四半期決算概要	p.3-8
2. 2023年3月期 通期業績予想	p.9-14
➤ Appendix	p.15-19
✓ セグメント別状況	

(※) 本資料上、「感染症」との表記は、「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）」を指します

**(添付) Ocean Network Express
2022年度第1四半期決算説明資料**

1Q振り返り（前年同期比）

- ▶ **売上高** : **6,730億円（1,684億円 増収）**
- ・ 不定期専用船事業はドライバルクの好調な市況推移や円安による為替影響を受け増収（745億円 増収）
 - ・ 物流事業の運賃水準上昇により増収（630億円 増収）
- ▶ **経常損益** : **3,777億円（2,241億円 増益）**
- ・ 旺盛な需要が継続し、ライナー&ロジスティクス事業（定期船・航空運送・物流事業）で大幅な増益（1,761億円 増益）
 - ・ ドライバルクの好市況や自動車輸送における最適運航による効率向上で不定期専用船事業も増益（481億円 増益）
- ▶ **当期純損益** : **3,433億円（1,922億円 増益）**
- ・ ロシア・ウクライナ情勢による事業環境の悪化により、サハリンⅡプロジェクトのLNG輸送に関連して約178億円の特別損失を計上

前年度4Qからの推移（経常損益）

- ▶ 各事業4Q比で好調を維持する中、ライナー&ロジスティクス事業（定期船・航空運送・物流事業）が大幅増益に

前年度4Q実績	3,048億円
1Q実績	3,777億円
増益額	729億円

セグメント別（経常損益 前年同期比）

▶ 定期船 : 2,704億円（1,590億円 増益）

コンテナ船（Ocean Network Express社）

- ・ 中国のロックダウンやロシア・ウクライナ情勢の影響を受けながらも好調な輸送需要が継続
- ・ 北米西岸等の一部主要港では港湾混雑の解消が見られたものの、いまだ内陸部を含め世界的なサプライチェーンの混乱は収束せず、需給は逼迫
- ・ 足もとでは調整が見られるも、前年同期比では高水準で推移した短期運賃と長期契約更新による運賃上昇で大幅な増益に

ターミナル

- ・ 海外は、北米ターミナルの一部売却により前年同期比で取扱量が減少も、国内の取扱量はほぼ同水準で推移

▶ 航空運送 : 246億円（93億円 増益）

- ・ 国際旅客便の復便により、逼迫した需給は一部緩和が見られるが、引き続き堅調な市場環境は変わらず
- ・ 中国のロックダウンによる上海線の大幅な運休やロシア・ウクライナ情勢を背景とした欧州線の減便が生じたが、半導体関連貨物の好調な輸送需要と好況下での長期契約更改により、運賃は高水準で推移

セグメント別（経常損益 前年同期比）

▶ 物流 : 193億円（77億円 増益）

- ・ 海上貨物 ロックダウンの影響で取扱量は前年同期を下回るも、販売価格の高止まりに加え、通関・内陸輸送等の付帯サービス拡販により好調維持
- ・ 航空貨物 海上貨物と同様に取扱量は減少するも、販売価格は前年同期を上回る水準。緊急出荷対応の需要もあり、業績を押し上げ
- ・ ロジスティクス 人件費等の高騰はありながら、北米を中心に一般消費財の活発な荷動きが継続し、好調に推移

▶ 不定期専用船 : 641億円（481億円 増益）

自動車輸送

- ・ 半導体生産不足や感染症拡大による自動車部品不足の影響を受けたものの、配船の工夫や代替貨物の集荷により輸送効率を上げるとともに、前年同期並みの輸送台数を維持

ドライバルク事業

- ・ 好調な荷動きに支えられ、パナマックス、ハンディ、ハンディマックスといった中小型船型の市況が好調に推移し、業績良化

エネルギー事業

- ・ VLCCの市況は低迷が続くも、VLGC等の市況は良化
- ・ LNGはロシア・ウクライナ情勢に起因した特別損失を計上するも、海洋事業を含めて中長期契約に支えられ、業績は安定して推移

(億円)	22/3期							23/3期	1Q比較増減
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	
売上高	5,046	5,467	10,513	6,245	6,048	12,293	22,807	6,730	1,684
営業損益	530	649	1,179	800	709	1,510	2,689	891	361
経常損益	1,536	2,436	3,972	3,010	3,048	6,059	10,031	3,777	2,241
親会社株主に 帰属する 当期純損益	1,510	2,602	4,113	2,808	3,168	5,977	10,091	3,433	1,922
為替レート	¥109.80	¥109.99	¥109.90	¥113.12	¥115.34	¥114.23	¥112.06	¥126.49	¥16.69
燃料油価格	\$441.92	\$515.24	\$477.42	\$555.96	\$616.36	\$585.23	\$531.19	\$789.48	\$347.56

前年同期比較（セグメント別）

1Q決算



事業 セグメント (億円)		22/3期							23/3期	1Q比較 増減
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	
ライナー & ロジスティクス 事業	定期船	501	438	940	470	494	965	1,905	518	16
		1,113	1,790	2,903	2,140	2,297	4,438	7,342	2,704	1,590
	航空運送	439	458	897	518	471	989	1,887	625	185
		153	177	330	233	176	410	740	246	93
物流	1,768	2,005	3,773	2,359	2,341	4,701	8,474	2,398	630	
	115	168	284	172	130	303	587	193	77	
(単純合計)	2,709	2,901	5,610	3,349	3,307	6,656	12,267	3,541	832	
	1,382	2,135	3,518	2,547	2,604	5,151	8,670	3,144	1,761	
事業 専用定期船	不定期	2,176	2,392	4,569	2,676	2,499	5,176	9,745	2,922	745
	専用船	160	316	477	462	451	913	1,391	641	481
その他 事業	不動産	15	8	24	8	8	17	42	8	▲ 7
		7	4	12	4	4	9	21	4	▲ 2
	その他	339	378	717	465	521	986	1,704	631	292
		▲ 6	▲ 10	▲ 17	6	0	5	▲ 12	3	10
	消去・全社	▲ 195	▲ 213	▲ 408	▲ 254	▲ 288	▲ 543	▲ 951	▲ 373	▲ 178
		▲ 7	▲ 9	▲ 17	▲ 9	▲ 11	▲ 21	▲ 38	▲ 16	▲ 8
	連結	5,046	5,467	10,513	6,245	6,048	12,293	22,807	6,730	1,684
		1,536	2,436	3,972	3,010	3,048	6,059	10,031	3,777	2,241

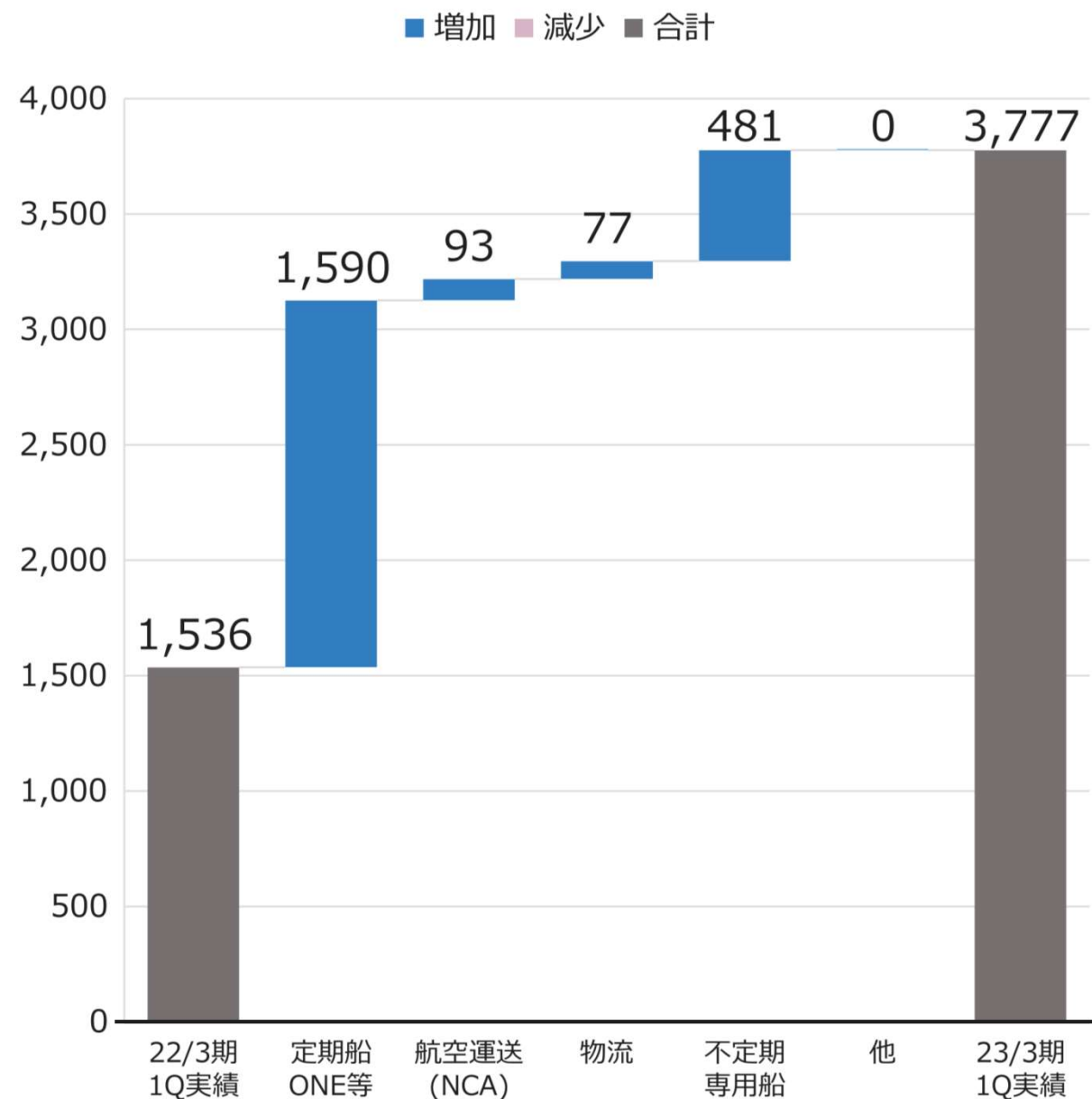
※（上段）売上高 （下段）経常損益

要因別分析

	(億円)	
円安	248	今期 126.49円/\$ 16.69円の円安
燃料油高	▲ 28	今期 \$789.48/MT \$347.56/MTの上昇
海運市況 変動等	1,752	定期船(含むONE) +1,424 不定期船 +328
為替差損益	115	
その他	154	物流 +77 航空運送(NCA) +93
合計	2,241	

事業別分析

(単位：億円)



通期業績予想（前回 通期決算時の予想比）

▶ 売上高 : 2兆5,000億円（2,000億円 増収）

- ・ ライナー&ロジスティクス事業（定期船・物流事業・航空運送事業）で1,035億円、不定期専用船事業で560億円、円安による為替影響もあり、その他の事業でも745億円の増収を見込む

▶ 経常損益 : 1兆400億円（2,800億円 増益）

- ・ ライナー&ロジスティクス事業は前回予想比で上期を中心に上方修正とし、2,450億円の増益
- ・ 不定期専用船事業も前回予想比で上期を中心に上方修正し、400億円の増益

▶ 当期純損益 : 9,600億円（2,400億円 増益）

▶ 配当 : 中間 1,000円/株・期末 145円/株（※）

- ・ 連結配当性向 25%を目安とする株主還元の基本方針に基づき、中間配当を前回予想から350円引き上げ1,000円/株とし、期末配当を10円引き上げて145円/株に

（※）2022年9月30日を基準日および10月1日を効力発生日として普通株式1株につき3株の割合で株式分割を実施予定。期末配当は株式分割後基準で145円/株とし、分割前基準での年間配当金は1,435円/株となる

セグメント別（経常損益 前回決算時の予想比）

▶ 定期船 : 7,700億円（2,200億円 増益）

コンテナ船（Ocean Network Express社）

ONE社としての業績見通しの公表は見送るも、一定の前提を確認の上、通期業績予想に反映

- ・ 上期に想定していた中国のロックダウンやロシア・ウクライナ情勢の影響は限定的となり、期初予想比で運賃水準・積高ともに想定を大きく上回り推移
- ・ 北米西岸の労使交渉の影響は引き続き注視が必要も、2Qのピークシーズンまでは引き続き逼迫した需給が継続
- ・ 下期以降は世界経済の減速により北米を中心とした需要が落ち着きを見せ、物流サプライチェーンの混乱収束と需給バランスの正常化が徐々に進行、短期運賃は下方に調整される前提

ターミナル

- ・ 北米西岸のターミナルを優先し、順次海外ターミナルのONE社への移管を目指す

▶ 航空運送 : 770億円（150億円 増益）

- ・ 1Qは中国ロックダウンやロシア・ウクライナ情勢を背景に、上海線・欧州線で減便影響を受けるも、運賃水準は期初の想定を大きく上回り推移
- ・ 国際旅客便の市場復帰による需給緩和には未だ一定の時間を要し、また好況下での契約更改を行った長期契約も収支に貢献

セグメント別（経常損益 前回決算時の予想比）

▶ 物流 **： 480億円（100億円 増益）**

- ・ **海上貨物** 中国ロックダウン等の影響で1Qの取扱量は減少するも、販売価格は想定を上回り高水準を維持。今後は輸送需要の減少から徐々に利益水準は低下
- ・ **航空貨物** 海上貨物と同様、1Qの取扱量は減少する中で好調な販売価格を維持し、期初予想から利益水準は良化。下期に季節的な需要期を見込むも、需給バランスの正常化に伴い、利益水準は低下
- ・ **ロジスティクス** 人件費高騰等の影響はあるも、北米を中心に1Qの荷動きは想定を上回り推移。契約見直しやコスト削減を進め、更なる収益安定化へ

▶ 不定期専用船 **： 1,540億円（400億円 増益）**

自動車輸送

- ・ 半導体不足や減産の影響は未だ不透明ながら、中古車や建機等の輸送需要を取り込み、堅調な輸送台数を維持

ドライバルク事業

- ・ 上期に小型船を中心に好市況をつかみ、収支に大きく貢献。各船型で下期の市況は若干弱含む想定も、引き続き堅調に推移する見通し

エネルギー事業

- ・ VLCCの市況は下期に一定程度の回復を見込み、VLGCは期初予想比で良化
- ・ LNG船や海洋事業の中長期契約に支えられ、堅調な業績推移を見込む

通期業績予想（サマリー）

業績予想



(億円)	22/3期(実績)					23/3期(予想)				通期 増減	前回 予想比 (通期) ※1
	上期		下期		通期	上期		下期	通期		
	1Q	2Q	3Q	4Q		1Q(実)	2Q				
売上高	10,513		12,293		22,807	13,000		12,000	25,000	2,193	2,000
	5,046	5,467	6,245	6,048		6,730	6,269				
営業損益	1,179		1,510		2,689	1,500		1,000	2,500	▲ 189	630
	530	649	800	709		891	608				
経常損益	3,972		6,059		10,031	7,200		3,200	10,400	369	2,800
	1,536	2,436	3,010	3,048		3,777	3,423				
親会社株主に帰属する 当期純損益	4,113		5,977		10,091	6,700		2,900	9,600	▲ 491	2,400
	1,510	2,602	2,808	3,168		3,433	3,266				
為替レート	¥109.80	¥109.99	¥113.12	¥115.34	¥112.06	¥126.49	¥128.00	¥128.00	¥127.62	¥15.56	¥7.62
燃料油価格（全油種）	\$441.92	\$515.24	\$555.96	\$616.36	\$531.19	\$789.47	\$899.00	\$832.25	\$838.24	\$307.05	\$96.99
燃料油価格（HSFO）	-	-	-	-	-	-	\$650.00	\$605.00	-	-	-
適合油価格（VLSFO）	-	-	-	-	-	-	\$930.00	\$860.00	-	-	-

▶ 利益に対する感応度(2-4Qの残り9カ月)

為替レート : 1円の円安で約46.2億円の増益 (※2)

燃料油価格 : \$ 10/MTの燃料油価格下落で約3.2億円の増益

(※1)通期決算発表（2022年5月9日時点）の
通期業績予想との比較を示しています

(※2)外貨建て持分法投資損益の換算は、期中
平均為替レートを採用

通期業績予想（セグメント別）

業績予想



事業セグメント		22/3期（実績）					23/3期(予想)					通期 増減
(億円)		1Q	2Q	上期	下期	通期	1Q(実)	2Q	上期	下期	通期	
ライナー & ロジス ティク ス事 業	定期船	501	438	940	965	1,905	518	482	1,000	725	1,725	▲ 180
		1,113	1,790	2,903	4,438	7,342	2,704	2,795	5,500	2,200	7,700	358
	航空運送	439	458	897	989	1,887	625	600	1,225	1,160	2,385	498
		153	177	330	410	740	246	184	430	340	770	30
	物流	1,768	2,005	3,773	4,701	8,474	2,398	1,991	4,390	3,950	8,340	▲ 134
		115	168	284	303	587	193	107	300	180	480	▲ 107
	(単純合計)	2,709	2,901	5,610	6,656	12,267	3,541	3,073	6,615	5,835	12,450	183
		1,382	2,135	3,518	5,151	8,670	3,144	3,086	6,230	2,720	8,950	280
	不定期 専用船	2,176	2,392	4,569	5,176	9,745	2,922	2,907	5,830	5,530	11,360	1,615
		160	316	477	913	1,391	641	358	1,000	540	1,540	149
そ の 他 事 業	不動産	15	8	24	17	42	8	7	15	15	30	▲ 12
		7	4	12	9	21	4	6	10	5	15	▲ 6
	その他	339	378	717	986	1,704	631	593	1,225	1,150	2,375	671
		▲ 6	▲ 10	▲ 17	5	▲ 12	3	▲ 9	▲ 5	▲ 10	▲ 15	▲ 3
	消去・全社	▲ 195	▲ 213	▲ 408	▲ 543	▲ 951	▲ 373	▲ 311	▲ 685	▲ 530	▲ 1215	▲ 264
		▲ 7	▲ 9	▲ 17	▲ 21	▲ 38	▲ 16	▲ 18	▲ 35	▲ 55	▲ 90	▲ 52
	連結	5,046	5,467	10,513	12,293	22,807	6,730	6,269	13,000	12,000	25,000	2,193
		1,536	2,436	3,972	6,059	10,031	3,777	3,423	7,200	3,200	10,400	369

※（上段）売上高 （下段）経常損益

通期業績予想（セグメント別・前回今回予想比）

業績予想



事業セグメント		前回予想(※2)			今回予想			前回予想差(※2)		
		(億円)	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期
ライナー & ロジスティクス事業	定期船	685	675	1,360	1,000	725	1,725	315	50	365
		3,500	2,000	5,500	5,500	2,200	7,700	2,000	200	2,200
	航空運送	1,065	985	2,050	1,225	1,160	2,385	160	175	335
		330	290	620	430	340	770	100	50	150
	物流	3,945	4,060	8,005	4,390	3,950	8,340	445	▲ 110	335
200		180	380	300	180	480	100	0	100	
(単純合計)	5,695	5,720	11,415	6,615	5,835	12,450	920	115	1,035	
	4,030	2,470	6,500	6,230	2,720	8,950	2,200	250	2,450	
不定期 専用船	5,520	5,280	10,800	5,830	5,530	11,360	310	250	560	
	580	560	1,140	1,000	540	1,540	420	▲ 20	400	
その他事業	不動産	15	10	25	15	15	30	0	5	5
		5	5	10	10	5	15	5	0	5
	その他	805	825	1,630	1,225	1,150	2,375	420	325	745
		0	5	5	▲ 5	▲ 10	▲ 15	▲ 5	▲ 15	▲ 20
消去・全社	▲ 435	▲ 435	▲ 870	▲ 685	▲ 530	▲ 1,215	▲ 250	▲ 95	▲ 345	
		▲ 15	▲ 55	▲ 90	▲ 20	▲ 15	▲ 35			
	連結	11,600	11,400	23,000	13,000	12,000	25,000	1,400	600	2,000
		4,600	3,000	7,600	7,200	3,200	10,400	2,600	200	2,800

※1 (上段) 売上高 (下段) 経常損益

※2 前回予想 = 通期決算発表（2022年5月9日時点）の通期業績予想を示しています

Appendix

▶ 1. 航空運送事業（NCA）

	22/3期(実績)					23/3期(予想)				前回 予想比 (通期)
	上期		下期		通期	上期		下期	通期	
	1Q	2Q	3Q	4Q		1Q(実)	2Q			
売上高(億円)	897		990		1,887	1,225		1,160	2,385	335
	439	458	518	471		625	600			
経常損益(億円)	330		410		740	430		340	770	150
	153	177	233	176		246	184			
輸送重量	250		210		460	196		193	389	▲ 44
千トン	129	121	110	101		97	99			
輸送量(RTK) 百万トンキロ	1,425		1,252		2,677	1,208		1,192	2,400	▲ 325
	726	699	651	602		598	610			
供給量(ATK) 百万トンキロ	1,874		1,715		3,589	1,912		1,888	3,800	450
	953	922	890	825		880	1,032			
YIELD指数	144		190		164	238		225	232	81
09/3期 1Q=100	139	149	193	187		251	225			
燃料単価 (ジェット燃料)	\$74		\$100		\$87	\$149		\$150	\$149	\$42
US\$ per bbl	\$71	\$77	\$89	\$112		\$148	\$150			
機材の稼働時間	114		104		109	-		-	-	-
21/3期 1Q=100	115	113	109	99		104	-			

※ 輸送重量・輸送量(RTK)・供給量(ATK)・YIELD指数は、子会社及び提携航空会社への販売事業は含まない。

※ 稼働時間は、ドライリース中の機材を含まない。

▶ 2. 物流事業：郵船ロジスティクス

		21/3期 (実績)	22/3期(実績)				通期	23/3期(予想)				前回 予想比 (通期)
		上期		下期		上期		下期	通期			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q(実)				2Q		
海上 輸出	TEU	723	370		351		721	346		382	728	▲ 35
	(1,000TEU)		188	182	182	168		167	179			
	前年同期比	▲ 5%	10%		▲ 9%		▲ 0%	▲ 7%		9%	1%	▲ 5%
			22%	0%	▲ 7%	▲ 11%		▲ 11%	▲ 2%			
航空 輸出	重量	326	201		199		400	170		202	372	▲ 37
	(1,000トン)		100	101	106	93		82	88			
	前年同期比	▲ 3%	52%		2%		23%	▲ 15%		2%	▲ 7%	▲ 9%
			56%	49%	16%	▲ 10%		▲ 18%	▲ 13%			

▶ 3. 不定期専用船事業 – 1) ドライバルカー・タンカー市況動向

		22/3期(実績)					23/3期(予想)				前回予想 (通期)
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q(実)	2Q	下期	通期	
ドライバルカー	BDI	2,791	3,732	3,478	2,020	3,005	2,517	2,560	1,950	2,244	2,048
	Cape	31,280	42,380	42,306	14,603	32,642	21,347	28,000	21,000	22,837	21,750
	Panamax	25,912	33,612	29,127	23,006	27,914	26,580	24,000	19,000	22,145	20,750
	Handymax	25,407	34,278	30,382	24,853	28,730	28,873	24,000	18,000	22,218	18,500
	Handy	22,420	32,204	31,229	23,840	27,423	27,535	23,000	17,250	21,259	18,500
タンカー	VLCC	▲ 589	▲ 3,053	1,685	▲ 7,290	▲ 2,312	▲ 11,190	▲ 5,000	15,000	3,453	15,000
	VLGC	35,655	22,961	39,657	30,039	32,078	45,958	30,000	32,500	35,239	30,000

※ Cape = 5TC, Panamax = 5TC, Handymax = 10TC, Handy = 7TC

※ ドライバルク船型別市況（スポット傭船料）

5TC = 5航路平均、10TC = 10航路平均、7TC = 7航路平均（単位 = \$/day）

▶ 3. 不定期専用船事業 – 2) 自動車輸送

	22/3期(実績)					23/3期(予想)				前回予想比 (通期)
	上期		下期		通期	上期		下期	通期	
	1Q	2Q	3Q	4Q		1Q (実)	2Q			
輸送台数 (万台)	205		210		415	212		225	437	1
	107	98	103	107		106	106			
前年同期比	41%		▲ 0%		16%	3%		7%	5%	0%
	23%	67%	2%	▲ 2%		▲ 1%	8%			

※ 21/3期は航海完了基準、22/3期は積切基準ベースで集計

※ 欧州域内輸送台数（スペースチャーター込み）を含む

ONE

OCEAN NETWORK EXPRESS

2022年度第1四半期決算説明資料

2022年7月29日

□	1. 2022年度第1四半期決算概要	P.3
□	2. 主要航路別積高・消席率・運賃指数	P.4
□	3. サプライチェーン混乱の影響と対応	P.5
□	4. 2022年度通期見通し	P.6
□	5. 2022年度取り組み	P.7
□	6. 参考資料（船隊構成、航路構成）	P.8

1. 2022年度第1四半期決算概要

□ 要点

需給に一部軟化の傾向がみられるも運賃市況は堅調に推移。第1四半期は前年同期比大幅な増益となる5,499百万US\$の黒字を達成(+2,940百万US\$)

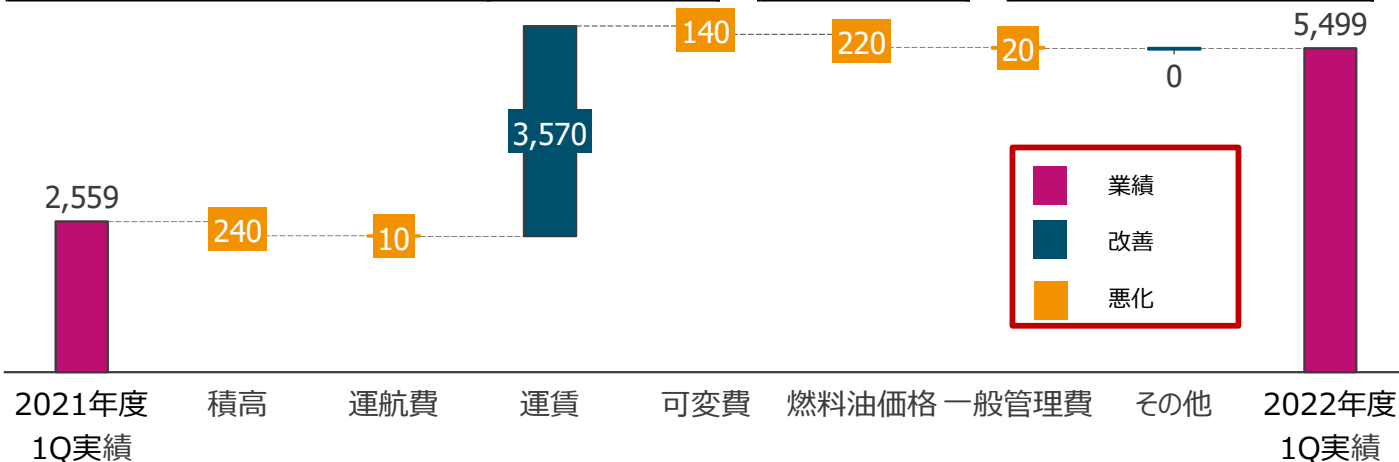
- ・ 4-6月の世界的な貨物需要は、上海のロックダウンやウクライナ問題の影響を受けながらも大きく崩れることはなく、堅調に推移。
- ・ 供給面では港湾混雑は一部で改善の傾向がみられるものの、北米東岸等では悪化するなど、サプライチェーンの混乱は世界各地で継続。
- ・ このため、運賃は前年同期を大幅に上回る水準で推移し、利益額を押し上げた。

□ 2022年度第1四半期実績並びに対前年度比較

(単位：百万US\$)

	2021年度	2022年度	1Q	
	1Q実績	1Q実績	増減	増減(%)
売上高	5,776	9,019	3,243	56%
EBITDA	2,924	5,859	2,935	100%
EBIT	2,657	5,561	2,904	109%
税引き後損益	2,559	5,499	2,940	115%

燃料油価格 (US\$/MT)	\$465	\$750	\$285	61%
総燃料消費量 (K MT)	906	773	-133	-15%
総積高 (K TEU)	3,104	2,939	-165	-5%



- 積高：前年同期比で若干減少。
- 運航費：船費は増加している一方運航隻数の減少、港湾混雑による燃料消費量減少等により、対前年同期並みに推移。
- 運賃：対前年同期比で大幅に上昇。
- 可変費：コスト削減は進展するも、世界的なインフレ及び港湾や内陸の混雑による追加費用により悪化。
- 燃料油価格：油価は上昇。
- 一般管理費：代理店費用やIT費用が増加。
- その他：前年同期並み。

2. 主要航路別積高・消席率・運賃指数

(単位：千TEU)

航路別積高・消席率		2021年度							2022年度
		1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	3Q 実績	4Q 実績	下期 実績	通期 実績	1Q 実績
北米往航	積高	615	649	1,264	564	523	1,088	2,352	577
	消席率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
欧州往航	積高	436	443	879	411	422	833	1,712	402
	消席率	100%	100%	100%	97%	97%	97%	100%	95%
北米復航	積高	328	309	638	258	240	498	1,135	278
	消席率	54%	54%	54%	47%	51%	49%	52%	48%
欧州復航	積高	339	347	687	305	289	594	1,281	282
	消席率	82%	78%	80%	69%	63%	66%	73%	58%

(2018年度1Qの各航路総平均運賃を100とした指数)

運賃指数		2021年度							2022年度
		1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	3Q 実績	4Q 実績	下期 実績	通期 実績	1Q 実績
北米往航		185	247	216	285	304	294	252	354
欧州往航		327	451	389	539	552	546	466	530

- 積高・消席率：前年度4Q比で北米往航は港湾混雑等が一部改善したことで積高は増加。欧州往航は積高、消席率共に若干減少。前年同期比では北米、欧州往復航共に積高が減少。
- 運賃指数：前年度4Q比では長期契約の更新もあり北米往航は上昇。欧州往航は下落。前年同期比では北米往航、欧州往航共に大幅に上昇。

3. サプライチェーン混乱の影響と対応

発生事象

- 世界的な貨物需要は堅調に推移。アジア発北米向け航路の4、5月の荷動きは前年同期比4%程度増加、依然として堅調な輸送需要が続いている。アジア発欧州向け航路の4月、5月の荷動きは上海のロックダウン、ウクライナ問題の影響等により前年同期比7%程度減少。
- ロサンゼルス、ロングビーチの混雑は改善するも、北米他港（バンクーバー、ニューヨーク、サバンナ等）は悪化。また、内陸も再び悪化傾向にある。欧州（ハンブルグ等）の混雑も継続している。
- 中国（上海、深圳等）ではロックダウンが発生しヤードが逼迫、トラックの規制により状況が悪化。6月に解除されるもその後の厳格な対策により回復には時間を要している。
- 北米西岸労使交渉は6月末で協約は失効。引き続き協議中。



ONEの 対応

Customer service oriented

- eコマースの新機能“ONE QUOTE”などデジタルソリューションの機能を拡充、対象地域も大幅に拡大。
- eコマースの全てのサービス機能を一新し、新たな顧客体験を提供する。

Operation excellency

- コンテナ調達を継続し、当四半期もドライコンテナ、リーファーコンテナ共に追加の調達を実行。
- 自社スペースの最大運用、及び追加船舶を活用したコンテナ回送を徹底。
- 引き続き、貨物需要に応えるべく柔軟な配船の実施並びに運航最適化を実施。
- ターミナルとも協業しコンテナの早期引き取りおよび返却の働きかけを実施。
- 船員交代のための臨時寄港にも最大限対応、船主との協力を強化。

Quality of employee

- 全世界のオフィスで柔軟な在宅勤務を実施。
- 社員同士の繋がりを維持し、地域社会に貢献するためのCSR活動を継続。



**一部改善はみられるもののサプライチェーンの混乱は各地において引き続き継続中。
ONEとしては社会インフラを維持する責任を果たすべくコンテナの追加調達や臨時船の投入等により
最大限の対応を実施。**

4. 2022年度通期見通し

- コロナ感染症拡大を主因とするサプライチェーン全体への負荷については、あるタイミングでオペレーションのボトルネックがある程度解消され、徐々に正常化に向かう事が予想されますが、影響が広範囲に渡ることから正常化の時期を見通すことは現状難しい状況となっております。
- さらに継続するロシア／ウクライナ問題、中国のゼロコロナ政策の影響、北米西岸労使交渉等の不確定要素が増えている状況において事業環境全体を予測することはより難しくなっております。
- ついては、現段階で合理的な見通しをすることは非常に難しい状況となっており、FY2022の通期見通しの公表については、未定といたしますが、環境変化に柔軟に対応しながら、混乱の解消、業績の安定化に努めてまいります。

5. 2022年度取り組み

方針		3月に公表した中期戦略及びグリーン戦略に則り事業を着実に遂行していく
		1. サプライチェーンを支えるコンテナ船社として、高品質で安全なグローバル輸送サービスの提供を継続するための投資を着実に実行していく。 2. グリーン戦略を当社の最重要経営課題と位置づけ、脱炭素化を始めとした業界の課題に取り組んでいく。 3. デジタル化や運航の効率化、リスク管理を更に強化、業界トップクラスの収益性と安全性をさらに高めていく。
進捗	投資	➢ 最新鋭大型コンテナ船の建造契約締結を発表。日本シップヤード株式会社および現代重工業株式会社との間で、13,700TEUを超える大型コンテナ船をそれぞれ5隻ずつ、計10隻を発注。2025年に竣工予定。 ➢ 新造船 12,000個型（長期傭船）2隻は計画通り引き渡し済み。北米西岸航路に投入。 ➢ 中東/インドーモザンビーク直行サービス、MIM(Mozambique - India - Middle East) サービスを開始。マブート直接寄港により南アフリカ、スワジランドやジンバブエといった国々の内陸マーケットへの新たなゲートウェイオプションを提供。
	環境	➢ 13,700TEUを超える新造船は、アンモニアやメタノールなどの環境負荷の低い代替燃料やCCS*の「レディノーテーション**」 或いはAiP（基本設計に対する承認）を取得予定。 *CCS (Carbon dioxide Capture and Storage): CO2回収・貯留技術。燃焼排ガスに含まれるCO2を回収し、船上に一時貯留することを想定。 **レディノーテーション：将来の使用を見越してシステムの基本設計を事前に行う船舶に対し、船級協会が要件を満たした場合に付与する符号。 ➢ PSA Corporation Ltd(PSA)とONEはグリーンサプライチェーンへの試みの一貫として、リーファーコンテナの冷凍ガスをリサイクルする試みに成功。 ➢ 海運事業における脱炭素化に向けて、3回目のバイオ燃料のトライアルに成功。
	デジタル	➢ eコマースの全てのサービス機能を一新し、新たな顧客体験を提供する。 ➢ クラウド上に保管された顧客情報を世界各国のオフィス間で共有、顧客への最適サービスの提供を通して、関係構築強化に活用。

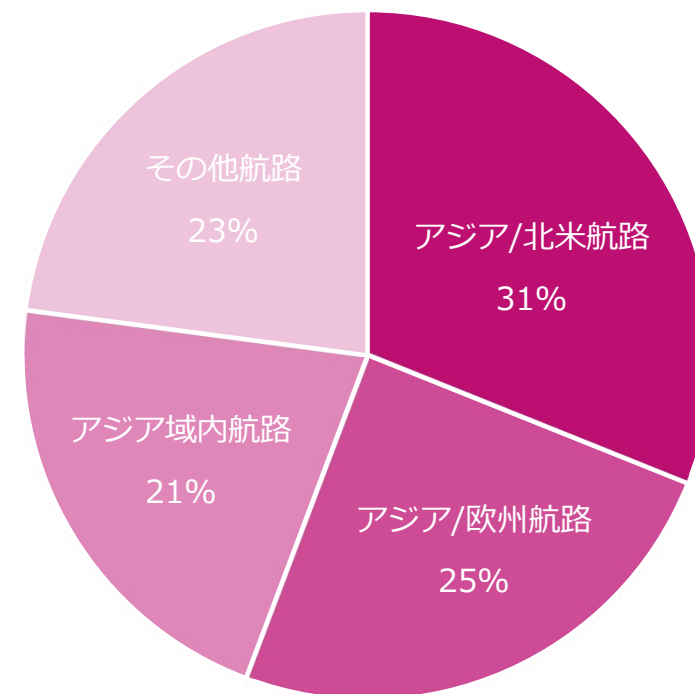
6. 参考資料（船隊構成・航路構成）

□ 船隊構成

Size		1)2022年3月末	2)2022年6月末	2)-1)
>= 20,000 TEU	キャパシティ(TEU)	120,600	120,600	0
	隻数	6	6	0
10,500 - 20,000 TEU	キャパシティ(TEU)	456,600	480,400	23,800
	隻数	33	35	2
9,800 - 10,500 TEU	キャパシティ(TEU)	110,200	110,200	0
	隻数	11	11	0
7,800 - 9,800 TEU	キャパシティ(TEU)	356,679	373,255	16,576
	隻数	40	42	2
6,000 - 7,800 TEU	キャパシティ(TEU)	138,307	138,307	0
	隻数	21	21	0
5,200 - 6,000 TEU	キャパシティ(TEU)	55,234	49,629	▲ 5,605
	隻数	10	9	▲ 1
4,600 - 5,200 TEU	キャパシティ(TEU)	82,922	78,260	▲ 4,662
	隻数	17	16	▲ 1
4,300 - 4,600 TEU	キャパシティ(TEU)	62,952	62,952	0
	隻数	14	14	0
3,500 - 4,300 TEU	キャパシティ(TEU)	20,599	16,358	▲ 4,241
	隻数	5	4	▲ 1
2,400 - 3,500 TEU	キャパシティ(TEU)	85,998	89,089	3,091
	隻数	32	33	1
1,300 - 2,400 TEU	キャパシティ(TEU)	10,354	12,163	1,809
	隻数	6	7	1
1,000 - 1,300 TEU	キャパシティ(TEU)	10,573	10,628	55
	隻数	10	10	0
< 1,000 TEU	キャパシティ(TEU)	0	0	0
	隻数	0	0	0
合計	キャパシティ(TEU)	1,511,018	1,541,841	30,823
	隻数	205	208	3

□ 航路構成

（2022年度1Q 往復スペースの構成）





免責事項

本資料に掲載されている将来計画や業績予測、戦略、方針、見込み等に関する記載は、資料作成時点で入手可能な情報及び一定の仮定に基づいて作成されたものであり、将来予想に関する記述に該当します。将来予想に関する記述は、予想、予測、期待、傾向、目的、計画、確信、模索、継続、可能性等の文言又は類似する表現が含まれることがありますが、これに限定されるものではありません。これらの記述は、様々な不確定要素及び可変要因により、実際の業績、結果、パフォーマンス等と大幅に異なる結果となる可能性があります。

本資料に掲載されている将来予想に関する記述と実際の結果との間に不一致をもたらす可能性のある要素としては、海運市況の著しい変動や、為替・金利・燃料油価格の変動などが挙げられますが、これらに限定されるものではありません。諸要素の詳細については、EDINETに掲載されている当社の有価証券報告書にも記載されていますので、ご参照ください。

本資料に記載されている将来予想に関する記述は、本資料作成日時点のものであり、当社は、本資料作成日以降に判明した新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された情報を最新のものと変更する義務を負うものではありません。

本資料に掲載されている情報は、信頼できる情報源より取得するよう努力していますが、その情報の正確性または完全性については保証または約束するものではありません。当社は、本資料において使用するデータ及び表現等の欠落、誤謬、本情報の使用により引き起こされる損害等に対する責任は一切負いかねますのでご了承ください。

お問い合わせ先 - IRグループ

住所 〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-3-2 郵船ビル
TEL 03-3284-6008
FAX 03-3284-6382

E-mail iroffice@nykgroup.com
URL <https://www.nyk.com/ir/>